自分は調停に着手してゐないよと伊藤警察部長語る

大阪鐵工所因島工場に於ける勞働爭議の調停に入つたと稱された伊藤警察部長は五日夜歸廣したが六日朝縣廳に於て語る

今朝の新聞を見ると何れも自分が勞資間の調停を執るべく因島に出張したと報ぜられてゐるが勿論調停には着手しても居なければ因島へも行かない他に要務があつたので尾道まで出張の序を以て爭議の狀勢を聽取しただけだが此爭議の長びくことはそれだけ工場の勞働者は勿論二三、三左兩町並に縣の損失は大となるので一日も早く解決させたいと思つてゐる目下町有志が心配して兩者の間を奔走してゐるが未だ何時解決を告げるか豫測出來ない將來適當の時機があつて自分の調停を希望されるならば或は其勞を惜まぬであらうが警察力は依然十分で殊に馬渕高等課長を派張せしめて指揮を執らせることにした

六月八日　山陽新聞記事

依然として爭議中因島工場の會社と職工

大阪鐵工所因島工場爭議は依然として繼續せられ會社側も經營上常に缺損を見て居る折柄として或は思ひ切つて當分閉鎖するに至るかも知れぬ形勢にあり一方爭議團側としては會社の此の立場にある事を見越し如何に缺損が續いて居るにせよ會社としては迚も工場を閉鎖するが如き事はあるまじと多寡を括つてこれまた多少の讓歩はせるも意地堅く踏み止まつて居る有樣である常に缺損續きの折柄でもあり殊に此爭議の結果が全般に波及する虞を思うて會社は斷然閉鎖するか又れとも讓歩して職工の要求を容るゝか又れとも既に開場して居ることとて爭議團側の軟派連中の出勤者多數を占めて爭議團の行動を力なきものとして終ふか行詰る處は其處にあるのであつて爭議團としても實に危ひ立場にあり若し閉鎖でもさるゝ事となれば立所に一千五百餘名は失職の悲哀を見ることゝなる譯なのである。